

I 新技術の解説

(1) 要 旨

○ね ら い

わい化栽培による高品質リンゴ果実の安定生産のために、簡易な栄養診断法として葉緑素計を用いた葉色診断（葉中N%推定）法を確立する。

○経過と方法

① 対象品種：ふじ、王林、千秋/M.26/マルバ

② 測定時期：7月下旬

③ 調査地：西目町

④ 測定方法：1樹当たり新梢の中央葉を15葉採取し、葉緑素計（SPAD-502）で葉の片側中心部を1葉毎に測定し平均値を算出した。

測定した葉は15葉を1サンプルとして乾燥、粉碎後窒素濃度を測定した。

○結果の概要

① 年次差はあったが、葉中N%と葉緑素値（SPAD）の間には有為な正の相関が認められた。

② ふじではSPAD値が44～48の範囲で葉中N%が高品質果実生産に適した基準の2.2～2.8%になると推定された。

(2) もたらされる効果

リンゴわい化栽培での栄養診断に利用できる。

(3) 普及対象範囲

葉緑素計による葉中N%の推定に際しては、気象条件、土壤条件の同じ地域内で代表的園地を選定し、SPAD値と葉中N%の回帰直線を年次毎に作成すること。

(5) 発表文献等

II 具体的データ等

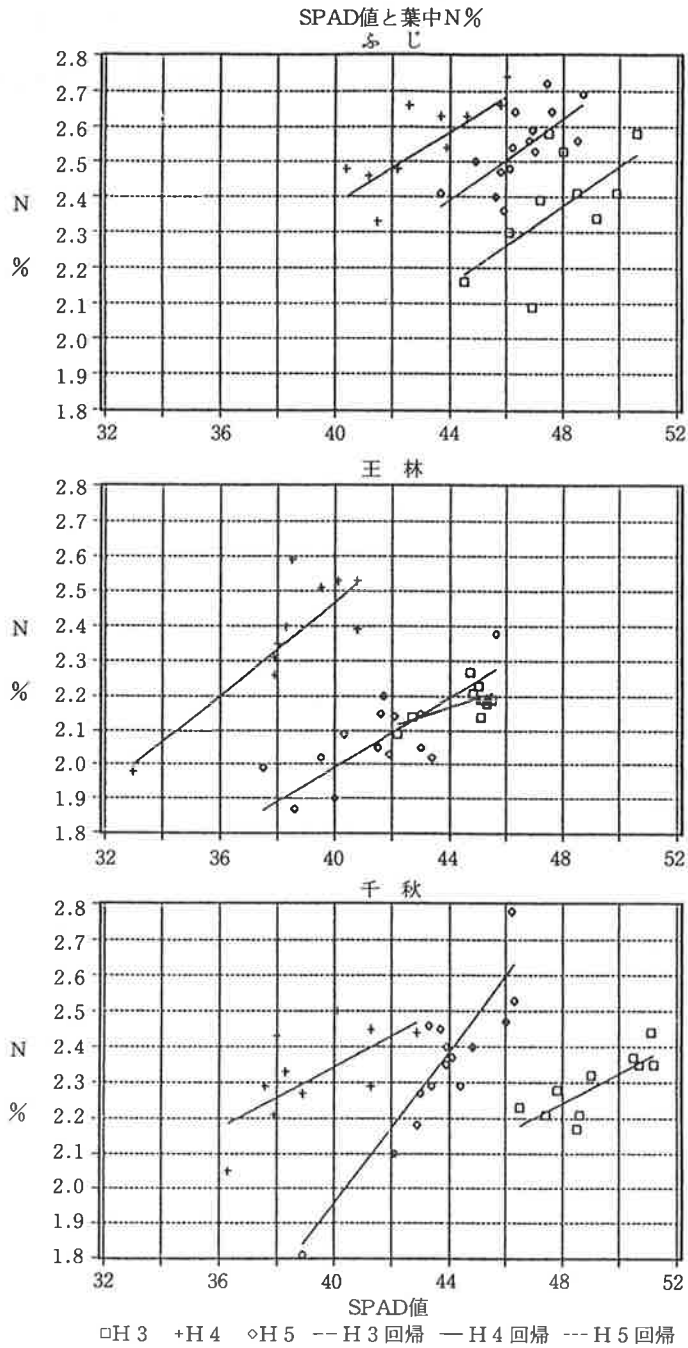


図-1 SPAD値と葉中N%の相関

発行年月	9506	キーワード	152
基礎分類	25	キーワード	
作目名	35	キーワード	